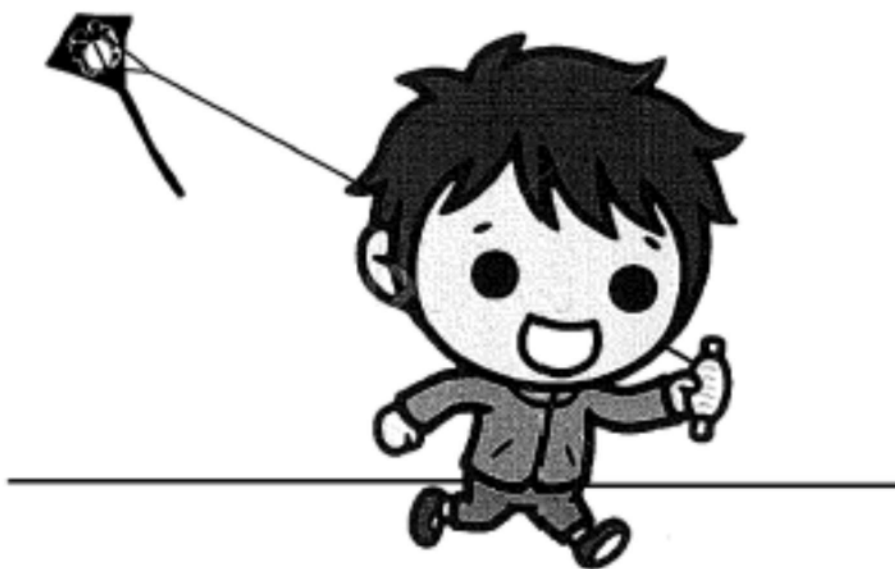
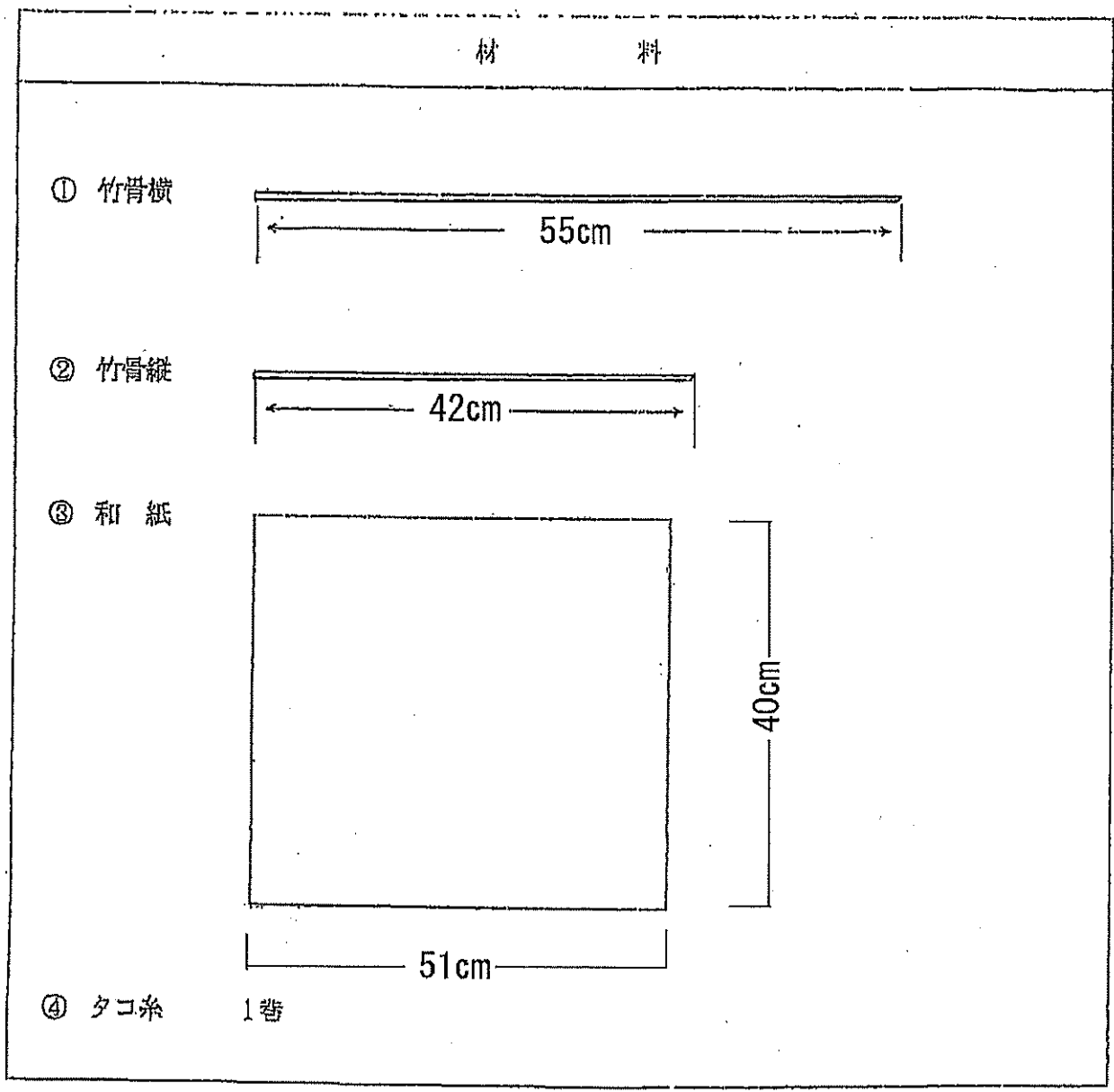


ダイヤタコのつくりかた

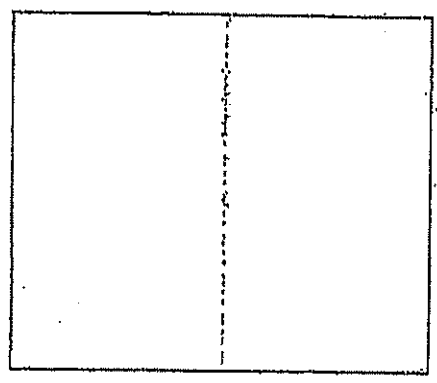


ダイヤ型 タコ のつくりかた

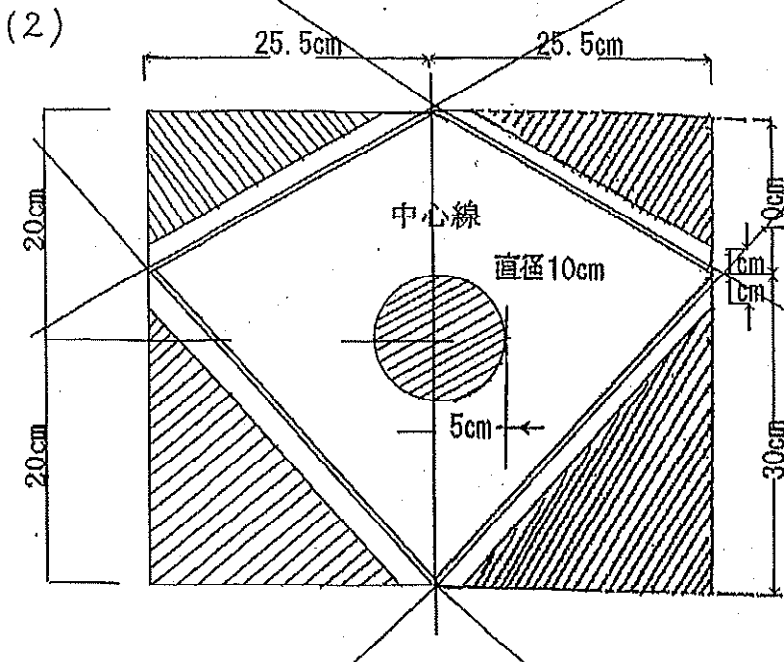


つくりかた

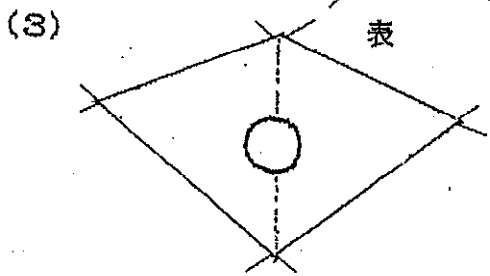
(1)



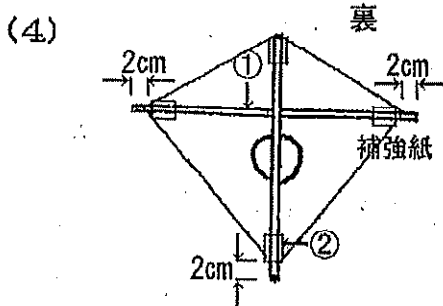
(1)の図 真中の点線のところから2つに折る。



- ① (2)の図の斜線部分を切り取る。
- ② 端の部分を1cmののりしろをとって、中にたこ糸をはさみ、のりを付けて折り返す。その時は余分に糸を5cmほど出しておく。
- ③ 斜線の切り取った紙は補強紙とたこの尾に使う。



切り取って糸を通すところなる。



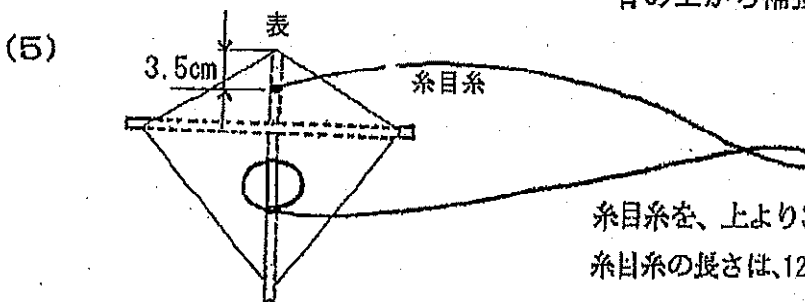
(3)の図のように作った紙に、番号の順に骨に「のり」をつけて貼る。

- ①の横骨は白い裏の方にのりを付ける
 - ②の縦骨は青い皮の方にのりを付ける
- たて骨は、上2mm~3mm、下は2cmほど出した位置に貼る。

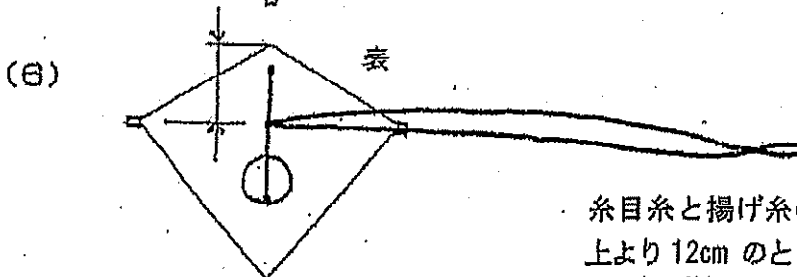
横骨は左右同じように2cmほど出して貼る。

端に出した糸を骨に縛る。

骨の上から補強紙(3cm×5cm)を貼る。

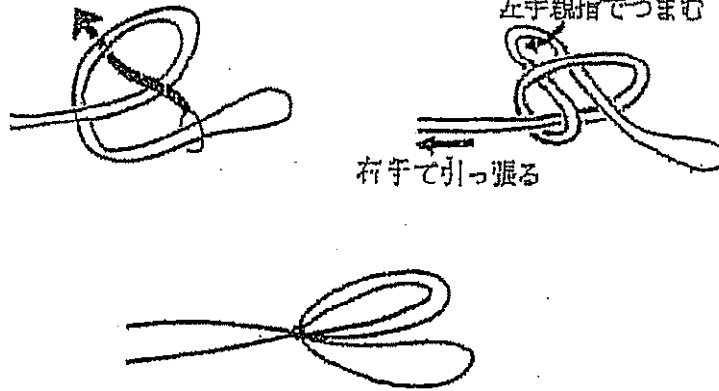


糸目糸を、上より3.5cmのところと、穴の下の位置にしぼる。
糸目糸の長さは、120cmの長さで切る。

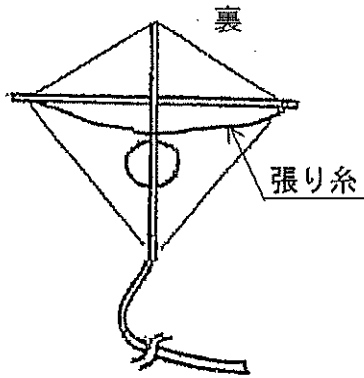


糸目糸と揚げ糸の結び位置は、上より12cmのところへ印をつけて、糸目糸を印のところまでしぼり、そのまましごいて先の方に輪を作る。(7)の図参照

(7)

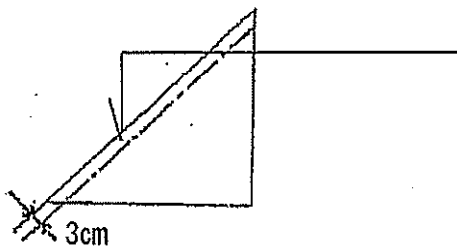


(8)



爪をウラにして、横骨に「張り糸」をつける。
 爪を揚げる時「張り糸」を横骨に巻いて 爪に「そり」
 をつける。そりは 6cm~7cm。

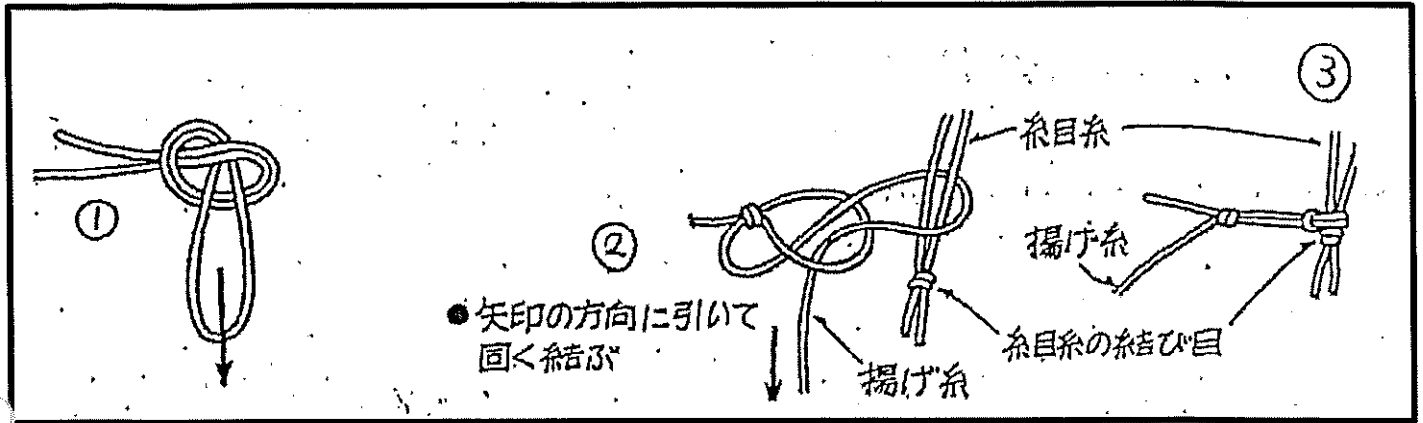
(9)



先に切った大きい方の三角形の紙で「しっぽ」を作り、
 真ん中へ貼りつけて できあがり。((8)参照)
 「しっぽ」は(9)の図のように 3cm幅で
 切り、爪に取り付ける。

※糸目糸と揚げ糸のむすびかた

- ① 揚げ糸の先端に直径20mmくらいの輪をつくる。
- ② ①でつくった輪の中に揚げ糸を二重にして入れ、その二重の輪の中に糸目糸の結び目を入れ、揚げ糸を矢印の方向に引いて固くしめる。
- ③ 図に示す位置に糸目糸の結び目がくるようにする。



たこ ちょうせい 凧の調整Q & A

たこ かいてん Q. 凧が回転する

- ・回転して墜落したり、左右に動きまわり不安定。
- まずA1の方法を試してみる。
- ダメな時は、A1とA2の方法を、あわせて試してみる。
- それでもダメな時は、さらにA3の方法もあわせて試してみる。

いとめ ちゆうしん さ A1. 糸目中心を下げる

下糸目を短くすれば、糸目中心が下がる。

- ① 糸目の結び目のところに下糸目を1cmほどたるませて持ち、あげてみる。
- ② それでもまだ回転・墜落するなど不安定なときは、さらに1cm、また1cmとたるませてあげてみる。

※試しあげにあげ糸が必要な場合は、そのたびに調整した結び目をつくり、その結び目にあげ糸をつないで、試しあげをする。

- ③ 調整できたら、最初の結び目の手前に調整した糸目糸の長さの結び目をつくる。
 - ・あげ糸は調整した結び目につなぐ。
 - ・糸目中心を下げると、凧の上昇角度は小さくなる。→高くあがらなくなる。
 - ・上昇角度が小さくなり過ぎないうちに、糸目による調整は中止する。

⇒糸目中心をいっぱい下げても調整しきれない場合は、糸目中心を調整したままの位置にしておき、反り高による調整を試してみる（A2へ）

そ だか おお A2. 反り高を大きくする

- ① 反り高を1cmおおきくしてあげてみる。
- ② それでもまだ回転・墜落するなど不安定なときは、さらに1cm、また1cmと大きくしてあげてみる。
 - ・反り高を大きくすると、凧の上昇角度は小さくなる。
 - ・上昇角度が小さくなり過ぎないうちに、反り高による調整は中止する。

⇒糸目中心を下げ、反り高を大きくしても調整できない場合は、糸目中心と反り高を調整したままの状態にしておき、尾を付けてあげてみる（A3へ）

お つ A3. 尾を付ける

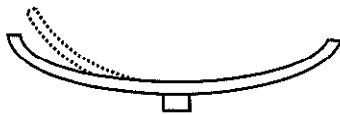
- ① 心骨の末端に尾を付ける。
 - ・尾は心骨に直接結ばない。凧糸またはレース糸を心骨の末端に二重または三重に巻いて固く結び、その先に輪をつくり、その輪に尾を通して結ぶ。

これらの方法を試してみても、なお調整できない場合は、
凧が強すぎるか、作り方が間違っている可能性がある。

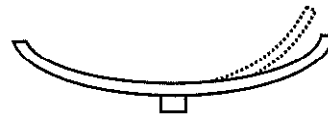
Q. 凧が右または左に傾いてあがる

→凧が右または左に傾いてあがる時は、次の方法により調整する。

左に傾いた場合



右に傾いた場合



凧が左に傾くときは点骨の右側を、右に傾くときは点骨の左側を、点線のように後方に手でしごくようにしてたわめ、傾きを調整する。

・ゆっくりと弱い力でたわめないと骨を折ってしまうことがある。

(特に節の部分は折れやすいので注意する)

・一度に大きくたわめず、少したわめたら試しあげをし、それを繰り返して凧が垂直になるまで調整する。

Q. 凧が高くあがらない

考えられる原因は4つ。それぞれの方法で調整する。

原因1. 糸目中心が下すぎる

→凧が不安定にならない程度まで糸目中心をあげる。

糸目中心をあげるには上糸目を短くすればよい。

原因2. 反り高が大きすぎる

→凧が不安定にならない程度まで反り高を小さくする。

原因3. あげ糸が重すぎる

→あげ糸が大きいたるんでいる場合は、軽く細いあげ糸に変える。

原因4. 尾が重すぎる

→尾を短くするか、軽く細いものに変える。

Q. 凧が弱すぎて凧があがらない

凧が弱いときは、次の方法を試してみる。

- ① あげ糸を30～50mくらい延ばし、凧を持ってもらって一気にたぐりあげる
※こうすると、凧が上空の風をつかみ、手元からではあがらない弱い風のときでもあがる可能性がある。
- ② 糸目中心をあげる。
- ③ 反り高を小さくする。
- ④ あげ糸を細く軽いものに変える。
- ⑤ 尾が必要な凧の場合は、尾を短くするか、細く軽いものに変える。